

地震にも“備えあれば憂いなし”は活きている？

おしゃべりサロン「相互塾」

(第69回) <入場無料>



老いも若きも大歓迎。Face to Face を大切に！

迫る！首都圏の直下型地震

日時：平成17年10月31日（月） 午後7時～9時

場所：調布市総合福祉センター 4階 視聴覚室（グリーンホール南隣）

語り手：岩田孝行さん

02年度震災予防協会賞受賞、東大地震研究所研究推進員、日本地震学会会員

首都圏の地下深くでは4枚(アジアP・北米P・太平洋P・フィリピンP)の地殻プレート(岩盤)と海洋プレートが常時押し合っていて、曲げられたり、引っ張りあって、100～150年間経過すると地震を起こす歪みエネルギーが蓄積します。

1923年の関東地震以降、さしたる地震も無く今日に至ったが、さる7月の連続した有感地震活動は都民を驚かせた。首都圏の地下では確実にマグニチュード7クラスの地震を準備しているのだ。

関東地方の地震活動は1924年以降(関東地震時がピーク)から、ゆるやかな下降のカーブをとり、1990年代まで平穏期が続いたが、現在はやや上昇の時期に入り、7月の地震活動はこれを示しています(岩田の資料による)。

昨年12月、政府の中央防災会議は首都圏中核都市の直下で大地震が起きた際の「震度分布図」を発表しました。これによると、100年以内には調布市周辺地域も最大震度7クラスの地震に襲われる可能性があるとして指摘しています。

本日は、新資料による120年間分の関東地方の地震活動(マグニチュード6以上のみ)と300年前の元禄地震及び80年前の関東地震の震源域から今後起こると見られる被害地震の地域を予想します。



【終了後懇親会(参加自由、実費2千円前後)を行います】

主催：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

連絡先：森下 政信 (TEL&FAX 83-9993)

E-mail mmanob@sepia.ocn.ne.jp

(ウラへ続く)